

日本における平均入院期間(科別)

病床の種類別にみた平均在院日数(入院期間) (単位:日)	平均在院日数		各年間 対前年 増減数
	平成26年 (2014)	平成27年 (2015)	
病院 全病床	28.5	29.1	△ 0.6
精神科病床	269.9	274.7	△ 4.8
感染症病床	7.8	8.2	△ 0.4
結核病床	66.3	67.3	△ 1.0
療養病床	152.2	158.2	△ 6.0
一般病床	16.2	16.5	△ 0.3
介護療養病床	314.9	314.8	△ 0.9
介護療養病床を除く全病床	27.5	27.9	△ 0.4
療養病床を有する診療所 療養病床	98.4	102.3	△ 3.9
介護療養病床	122.9	108.5	△ 14.4

【厚生労働省 平成28年(2016) 病院報告の概況 より引用】

精神科病床への平均入院期間は269.9日と介護療養病床に次いで長期化しています。しかし、この数値はあくまで平均であり、1年以上の精神科入院患者数は減少傾向ではありますが、18万5千人となっています(H26年時点)。長期化している要因の中には、退院できる状態だが退院先が見つからないといった**様々な理由**により地域に戻ることが困難な現状があります。

編集後記

『仲間について』

みなさんはどのように生きていきたいと思いますか？わたしは『毎日楽しく生きたい。』ということを思いながら日々生活しています。でも残念ながら楽しい事だけではないというのが現実ですね。自分は文章を書くのが苦手なので、今ニュースレターを書いていることもどちらかといえば嫌な事です。しかし自分が文章を書くのが苦手と知っている仲間にその話をすれば、嫌なことも笑って話をすることができます。

今回のニュースレターでの利用者の皆様の言葉では、入院することを良い事のようにお話ししている方はいらっしゃらないようでした。そうすれば必然的に退院は喜ばしい事であるはずが、そうではない言葉もありました。

『入院中は同じ境遇の人がいて話せるけど、退院すると孤独』という一節があります。精神科に入院や精神症状という相談しにくい悩みを抱え、近所の人にもどのように思われるのだろうかという不安を抱えながら生活することがとても大変であることは容易に想像できるかと思います。

しかしながら仲間に相談することで大変なことも乗り越えることができ笑顔になるのであれば、やっぱり仲間って大切だなと感じました。

僕も仲間を大切にしようと思います。

記：はばたき 荻野

(1)精神科デイケアとは…精神障がいのある方が、グループ活動をはじめとした、様々なプログラムへ参加することにより、社会参加や精神疾患の再発防止を目的とする場。

(2)グループホームとは…日常生活上、生活のしづらさを感じている障がいのある方や、援助を必要とする障がいのある方に、地域の生活環境において小人数で共同生活を送るための住居・食事・相談・日常生活の援助を行います。

精神科病院からの退院時に感じた様々な理由、障壁について生の声を次号で記載していきます！

アルカディア ニュースレター委員会 本部

群馬県太田市鶴生田町733-123 TEL:0276(20)2509 FAX:0276(20)2510

ニュースレター及び法人情報につきましては、<http://arcadia-gr.com/> でもご覧いただけます。

一歩

社会福祉法人 アルカディア

平成30年7月発行

発行：ニュースレター委員会

仲間

平成28年4月に障害者差別解消法(1)が施行され、障がいを理由とする差別を解消する為に様々な取組が進み、群馬県でも「バリアフリーぐんま障害者プラン7」(2)の中で、障がいの有無に関わらず、誰もがお互いを尊重し、共に暮らすことができる社会づくりに取り組んでいます。

アルカディアでは、こういった時代を背景として障がいのある方の地域生活を支える施設を運営する法人として、障がいのある方の地域生活について『仲間』を今年度のテーマとして検討していきたいとします。障がいのある者同士という意味での仲間だけではなく、支援者、地域生活を支えてくれる地域の方々、職場環境を整えてくれる事業主さん・上司・同僚といった、いろいろな意味での仲間をテーマとしてこのニュースレターの発行にあたりたいと考えています。

健常者が生活しやすいように構成されている社会の中で、障がいのある方も、社会で生活しやすくする為の工夫である『合理的配慮』(3)という言葉の意味の検証も含めて、障がいのある方の地域生活をより多くの人に知っていただくことで、地域住民の一員として、そしてお互いに理解し合っていけるような共生社会の実現に向けて取り組んで参ります。

(1)『障害者差別解消法』とは

正式名称は『障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律』

この法律は、障害のある人への差別をなくすことで、障害のある人もない人も共に生きる社会をつくることを目指しています。

【内閣府発行のリーフレットより引用】

(2)『バリアフリーぐんま障害者プラン7』とは

○計画の位置づけ・計画期間

本計画は、障害のある人の自立や社会参加の支援等のための本県の政策の基本的な考え方や方向性を明らかにするとともに、障害福祉サービスや障害児通所支援の提供体制の確保等について定め、障害のある人のための政策の総合的な促進を図るものです。本計画の期間は平成30年から平成32年度(2020年度)までの3年間です。

○基本理念

障害の有無にかかわらず、お互いを尊重し、住み慣れた地域で自分らしく生きる社会の実現。

○基本目標

- ①お互いの理解の促進、共生社会の実現に向けた取組の促進
- ②自己決定の尊重、意思決定の支援、当事者本位の総合的支援
- ③安全で安心できる地域づくり

【群馬県ホームページより引用】

(3)『合理的配慮』とは

障害のある人は、社会の中にあるバリアによって生活しづらい場合があります。この法律では役所や事業者に対して、障害のある人から、社会の中にあるバリアを取り除くために何らかの対応を必要とするとの意思が伝えられたときに、負担が重すぎない範囲で対応すること(事業者においては、対応に努めること)を求めています。

【内閣府発行のリーフレットより引用】

精神障がいと“付き合いながら”・・・

今回のニュースレターではアルカディアの各事業所を利用して下さっている利用者の方々を対象にインタビューを行いました。

インタビューにご協力頂いた方々は、精神科病院・病棟への入院・そこからの退院の経験をお持ちです。入退院の際、『どんな思いや気持ちだったのか』など、経験しなければわからない、経験したからこそ伝えられる利用者の方の《言葉》を載せていきます。インタビューに回答してくださった利用者の方々の中には「出来れば答えたくない・思い出したくない」と思いながらご協力してくださった方もいらっしゃるはずです。それでも、この記事を読んでくださった方が、少しでも障がいと付き合いながら生活を送られている方々の生活について知って頂くきっかけとなればと願っております。

自由という言葉の側面には、孤独や責任感などが伴っていることが感じられる意見を頂きました。

Q1：精神科病院・病棟から退院出来て良かったと感じる事や、逆に大変と感じる事はどんなことですか？

A1：入院中は外に出るのが規制されていたため、退院してからは買い物や趣味など『自由』になった。

A2：入院中とは違い、退院すると色々と自分でやらなければいけない。家で家事をするのが苦痛だった。

A3：入院中は同じ境遇の人がいて話せるけど、退院すると孤独を感じる。

Q2：精神科病院・病棟入院中の日々と退院してからの日々を比べてみてどう感じますか？

支援者や家族、“仲間”の存在があって、それぞれが生活していることが感じられます。

A1：入院中は職員に全部やってもらえた。退院してからは自分でやらないといけない為、自主性は出てきた。グループホーム(1)では規制があり、病院と一緒に思う事もあるが、1人暮らしには役立った。

A2：家族が面会に来てくれると、逆に入院したことによって、家族のありがたみを感じることが出来る。

A3：入院中に知り合った人と、退院後にデイケア(2)で話すことができ、どちらも悪くないと思えた。

A4：病院では他の患者さんに気を遣っていた。グループホーム(1)に退院したが、世話人さんが身近に居てくれるので安心できた。

A5：入院中は、色々な人と趣味の話ができたが退院してからは、逆に話す人が少なくなった。

Q3：精神科病院・病棟への入院が決定した時の心境は、どのようなものでしたか？

入院にあたって、葛藤があったり、世間の目があたり、仕方ないと受け入れたり。様々な感情がうかがえます。

A1：お先真っ暗。また自由のない生活。

A2：嫌だったけど、ちゃんと治療に専念しなきゃ。

A3：自分のためかなと思った。

A4：『なんで？』という思いが強かった。

A5：ショックだった。この気持ちは忘れない。入院しないと、この気持ちは分らないと思う。『精神科に入院』というのは、あまり知られたくないこと。この気持ちを知ってほしい…。

A6：『入院なんかしたくない』と思う時と、『入院して休みたい』と思う時がある。基本的には入院はしたくない。でも自分には限界があることも知っている。

Q4：精神科病院・病棟からの退院が決まった時の心境はどのようなものでしたか？

退院できる安心感。それとは逆の不安感。また入院しないために何が必要なのか？など様々な意見が上がりました。

A1：病院の生活に慣れてしまい、退院してやっていけるか自信が無く、不安だった。でも1番は嬉しかった。自分のやるべきことは薬をしっかり飲むことだと明確になった。

A2：急に退院が決まってびっくりしたが、結果的に『あー良かった』と思っている。

A3：退院が決まって嬉しかった。自立への第1歩。入院前は親に甘えてた。入院中に親のありがたみを知り、『自立しないと』と思った。また入院しないように薬はしっかり飲もうと思った。